



さらに安心！

## PETコースに おすすめする オプション検査

8月にある実業家が「スキルス性胃がん」が原因で亡くなったことが報道されました。「スキルス性胃がん」は胃の表層部分（胃壁）には現れず、筋層内でがん細胞が進行するため胃カメラでは発見しにくく、見つかった時には末期であることが多い悪性度の高いがんです。『消化器がん採血検査』は採血だけで「スキルス性胃がん」も含めて消化器系のがんを簡単に発見でき、がんの大きさや場所などの確認に有効なPET検査と組み合わせることで、早期がんの発見がより効果的になります。PET各コースと一緒に申し込みいただきますと、今ならで特別価格でご受診いただけます。

期間  
限定

平成23年12月1日～平成24年1月31日

ご好評につき延長決定！

平成24年2月29日まで

世界初！血液検査で消化器がんを発見

# 『消化器がん採血検査』

◎上記期間にご受診の方に限り、以下の特別料金でご利用いただけます。

PETベーシック＋頭部MRI オプションセットコース  
『消化器がん採血検査』付

189,000円  
(通常価格 227,850円)

PETベーシック コース  
『消化器がん採血検査』付

168,000円  
(通常価格 199,500円)

※『消化器がん採血検査』通常料金 94,500円（税込）単独でのお申込みは、ご利用いただけません。

## 世界初！感度の高い『消化器がん採血検査』

「消化器がん採血検査」は血液から抽出した物質を分析して消化器がんにかかっているかどうかを判別します。

金沢大学をはじめとする消化器内科専門医50名によって臨床試験が行われ、英文の科学雑誌「Biochemical and Biophysical Research Communications」に掲載された世界初の最新技術です。

消化器がん患者にこの検査を実施

がんにかかっていない人にこの検査を実施

陽性と判定できた割合は

98.5%

陰性と判定できた割合は

92.9%

つまり

正しく診断できる確率は

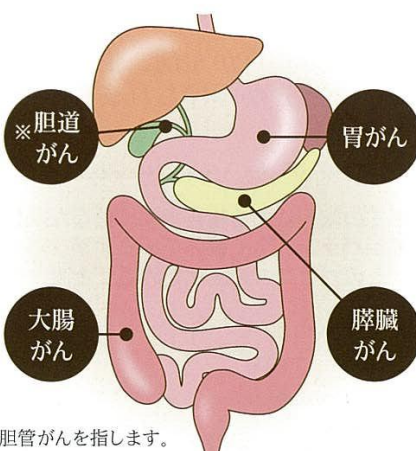
90%以上

非常に信頼度の高い検査と言えます。

## 検査の特徴

がんを発見するには、通常の健診では画像診断を活用します。MRIやCT、透視検査などは、身体の異常を医師が視覚的に確認します。一方「消化器がん採血検査」は場所は限られていますが、採血だけで簡単に早期がんが分かります。がんが発現する際に出てくる伝達情報を血液から抽出し測定するため、視覚的に確認できないほどの微細な細胞を発見出来る可能性が高いのです。

### 1 消化器がん採血検査でわかるがん



※胆道がんとは、胆嚢・胆管がんを指します。

### 2 簡単・安心な検査方法

- 5ccの血液採取のみ
- 特殊な薬剤投与もなし
- X線の被曝もなし

### 3 正確な検査精度

- 9割の精度で消化器がんを発見
- 早期のがんにも有効



**Q** がんの進行度は分かるのですか？

**A** いいえ。画像診断などで発見の難しい早期がんの発見には有効ですが、『消化器がん採血検査』ではがんの進行度の判別はできません。進行度の判定はP E T検査が優れています。

**Q** 胃がんの手術歴があります。術後の経過観察として『消化器がん採血検査』は有効ですか？

**A** いいえ。消化器がんの場合、治癒と判断されていても、陽性反応が出る場合があります。他の検査方法での経過観察をおすすめします。

**Q** 消化器がん以外のがん既往歴がある場合も『消化器がん採血検査』は有効ですか？

**A** はい。消化器以外のがん既往歴があっても、治癒と判断されている場合、消化器がんの発見に有効であると考えられます。

**Q** 大腸や胃などのポリープは陽性となるのでしょうか？

**A** はい。ポリープは陽性反応が出る場合があります。ポリープの数や大きさなどを調べる為にも、医師の指示のもと、内視鏡検査や画像診断などの精密検査を受けられることをおすすめします。

**Q** 『消化器がん採血検査』を受ければ胃カメラや大腸ファイバー等は受けなくてもいいのですか？

**A** いいえ。ごくまれですが『消化器がん採血検査』で陰性と判定された人に、がんが存在していた場合がありますので（100人のうち約1人の割合）、内視鏡検査のご受診もおすすめします。

**Q** 『消化器がん採血検査』と「腫瘍マーカー」の違いは何ですか？

**A** 『消化器がん採血検査』は消化器がんが存在している人だけに特別に変化を起こす、細胞内のRNA（リボ核酸）※を調べるため、他の要因が作用する可能性は少ないと考えられています。一方、体のどこかに腫瘍ができると血液中や排泄物に特別な物質が増えてきます。この物質を数値で表したのが「腫瘍マーカー」です。ただ、腫瘍マーカーの場合は数値が高いからといって必ずしもがんが存在することを示すものではありません。他の要因でも数値が高くなる場合があります。腫瘍マーカーは継続的に測定し、数値の増減を観察することが大切です。

**Q** 『消化器がん採血検査』を受ければ、腫瘍マーカーを受けるは必要ないのでしょうか？

**A** 消化器がんの有無を判別するには、腫瘍マーカー検査より有効です。腫瘍マーカーで正常値内であった人が『消化器がん採血検査』を行ったところ、陽性反応が認められ、その後の精密検査で大腸がんと診断された症例もあります。しかし、他部位からの転移によるがんなのか、逆に他の部位に転移をしていないか等を調べるには、腫瘍マーカーの示す数値を参考にします。早期発見・早期治療には総合的な検査が欠かせません。

**Q** 『消化器がん採血検査』の結果に影響を与える薬剤はありますか？

**A** はい。副腎皮質ホルモン、免疫抑制剤、抗がん剤、生物学的製剤（インターフェロン、ワクチン、血液製剤、インフリキシマブなど）が挙げられます。これらの薬剤を投与されている方は、判定結果に影響が出る場合があります。

※ RNA（リボ核酸）とは

体のすべての細胞にある物質です。健康な状態の時には、体の中でいろいろな種類のRNAがバランスよく働いていますが、病気になるとそのバランスが崩れてしまいます。このバランスの変化をみることで、健康状態を調べることができます。